

Media Information

平成28年11月17日 神戸新聞

明石南高校での介護の実技授業の様子が掲載されました。

ぶ

市内で研修会

保育者を利用する家庭から希望する児童を対象に夕食の提供を始めた。地域の子どもの会の協力を得て9月には沢池小で開始。今月から中崎小でも始める。

同センター代表理事の佐々木薫さんは「希望するすべての子どもを対象にすることで、結果として支援が必要な家庭が見つかるケースもある」と指摘する。

階段で歩行介助体験

明石南高 介護の実技授業

優しく寄り添い声掛け

介護の現場で働くプロによる実技授業が15、16日、明石南高校（明石市明南町3）で行われた。選択科目「社会福祉基礎」を受講している3年生計54人が3班に分かれ、介助の方法などを学習した。介護の現状をより分かりやすく学べるよう、同校が特別養護老人ホーム「清華苑」（大

久保町大窪）に依頼。介護福祉士らが講師を務め、本年度は実技を5度と、認知症などについての座学も実施している。

今回は、歩行介助を体験。1人がアイマスクをし、もう1人が寄り添って廊下や階段を歩いた。左足を患っていると仮定し、講師が「昇りはつえ、右足、左足、降りるときはつえ、左足、右足の順で」

研修会では参加者から、食材の確保やスタッフの集め方などのほか、「地域の高齢者サロンなどにつなげられないか」といった質問もあった。

川辺さんは運営などについて、方法やうまくいくコツを共有しようとして、発表して開設した「こども食堂ネットワーク関西」のウェブサイトを紹介した。

市民会館 高齡者大学校学園祭 陶芸など500点

明石市立高齡者大学校「あかねが丘学園」（東仲ノ町）の学園祭が16日、市立市民会館（中崎1）で始まった。在校生やOBら計約700人の写真や絵画、書道など約500点が展示されている。

学生自治会長の堀上義治さん（74）は「新明市は「工夫を凝らした作品がそろった。楽しんで取り組んでいる」と感じてほしい」と

真つすぐ歩いているのか分からず、少しの段差でもすく怖かった。分かりやすくて的確に伝える大切さが分かった」と話していた。（金山成美）



アイマスクをした生徒と、介助する生徒ら＝明石南高校



力作が並ぶ展示会場＝中崎1